

## 第22回 みどりの文化賞



### 「水と緑と土」は、 豊かな自然の原点

受賞者

富山 和子氏 (78歳)

1. 富山和子氏は、水と森林等に係る研究者として知られ、森林・林業の多面的機能を評価し世に訴えるなど、水と農林業に係る社会科学と自然科学双方からの幅広い研究は「富山学」と呼ばれている。  
著書『水と緑と土』（昭和49年）は環境問題のバイブルといわれ38年のロングセラーの書。また『川は生きている』などの著書は、小・中・高校の教科書に掲載されたり、大学入試に出題されるなど、教育や行政の現場で広く活用されている。
2. 更に23年間にわたり「日本の米カレンダー」を制作、農林漁業を守るキャンペーンを続け、1997年にはハーバード大学に招かれ「水と日本文化」と題し講演するなど、国際的にも反響を呼んだ。「水は土壌の産物、その土壌の形成者が森林」「日本は木を植える文化の国」といった広い視野からの理論で、国の審議会等でも鋭い提言を行ってきた。
3. 昭和60年、森林・林業が厳しい状況に置かれる中で、国民共通の財産である森林づくりをいかに進め、次代に引き継ぐべきかについて検討する「21世紀の森林づくり委員会」（座長水上達三）の委員として参画、「21世紀へ、国民参加の森林づくりを」と題する提言（昭和61年）の作成に尽力した。この提言が「緑と水の森林基金（現在は「緑と水の森林ファンド」に改称）」の創設（昭和63年）につながった。  
また、「緑と水の森林基金」が創設されると、基金運営審議会の委員（昭和63年～平成22年）として、基金事業の推進と発展に多大な貢献を重ねてきた。
4. こうした長年の活動により、国民の森林・林業への認識の深化に寄与し、山村の人たちの自信や意欲の高揚に貢献した功績は高く評価される。

### 【富山和子氏の経歴等】

(略歴等)

- 昭和8年10月 群馬県前橋市に生まれる。
- 昭和32年3月 早稲田大学文学部卒業、出版社に勤務
- 昭和42年7月 評論家として独立、交通・水・森林・林業問題に取り組む
- 昭和63年4月 日本福祉大学客員教授、現在に至る
- 平成8年4月 立正大学社会福祉学部教授
- 平成16年4月 立正大学名誉教授

(政府委員等)

- 自然環境保全審議会委員（昭和50年～58年）
- 中央森林審議会委員（昭和53年～63年）
- 瀬戸内海環境保全審議会委員（昭和60年～平成5年）
- 海洋開発審議会委員（昭和63年～平成5年）
- 中央公害対策審議会委員（平成元年～5年）
- 林政審議会委員（平成2年～10年）
- 食料・農業・農村基本問題調査会委員（平成9年～11年）
- 国際コメ年日本委員会副会長（平成16年）など

(主な著書)

- 『水と緑と土』（中公新書）昭和49年 改版「水と緑と土」平成22年
- 『川は生きている』（講談社）昭和53年 産経児童出版文化賞
- 『水の文化史』（文芸春秋）昭和55年
- 『森は生きている』（講談社）昭和56年
- 『日本の米』（中公新書）平成5年
- 『お米は生きている』（講談社）平成7年 産経児童出版文化賞大賞
- 『水と緑の國、日本』（講談社）英訳つき 平成10年
- 『環境問題とは何か』（PHP新書）平成13年
- 『日本の風景を読む』（NTT出版）平成17年
- 『水と緑 日本の原風景』（家の光協会）英訳つき 平成20年
- 『海は生きている』（講談社）平成21年 など